

# 砂礫地で繁殖する鳥の生態と保全のための研究

## －イカルチドリとコチドリが好む礫サイズの推定－

### バードリサーチ

#### はじめに

砂礫地の水際にひっそりたたずむイカルチドリ、ちょこちょこと走り回るコチドリ、にぎやかで黒い頭と白い羽が印象的なコアジサシ・・・砂礫地を代表する鳥の多くが減少傾向にあることが全国繁殖分布の調査結果などから明らかにされています。過去の砂利採取による河床の低下、流量管理による植物の遷移の進行などによって、生息地である砂礫地が減少していることが原因だと考えられています。



砂礫地を形成する石（礫）の大きさは河川の特徴によって異なります。同じ河川でも、上流では大きく、中流では大きい礫から細かい砂まで幅があり、下流では細かい砂が大部分を占めるなど、変化に富んでいます。鳥たちはその中で、自分に好ましい砂礫環境に生息・繁殖していると考えられます。それぞれの種の必要とする環境を明らかにすることは、生息に適した砂礫地を回復するうえで、重要です。



そして、河川管理と並立できるような管理手法を考え、河川管理者に提案できれば、砂礫地を利用する鳥たちと河川管理が共存できるようになると期待できます。

地域や流域によって河川環境は異なるため、これらの種の利用環境も異なっている可能性があります。それぞれの環境を踏まえた管理を提案できるように、広域の情報を収集し、並行して詳細な現地調査を実施していきたいと考えています。

砂礫地の鳥：イカルチドリの巣と卵

## この研究が貢献できること

この調査の目的は、河川の砂礫地で繁殖するイカルチドリとコチドリの営巣環境を複数の河川で調査し、河川環境との関連を検討することを通して、繁殖に有用な礫サイズの幅を推定することです。コチドリは 15 の、イカルチドリは 27 の都道府県のレッドリストに掲載され、個体数の減少が懸念されています。彼らの生息環境を把握し、河川管理者に提言を行うことで、身近なチドリが住み続けられる河川管理に貢献できると考えます。

## 調査方法

**調査地：**多摩川、鬼怒川など

**調査時期：**2013 年 3 月～6 月

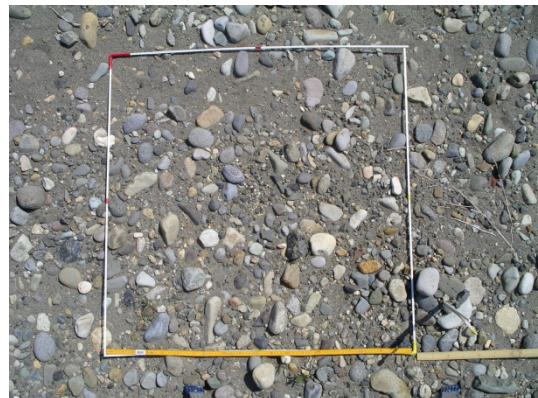
**鳥類調査：**対象河川の上流域、中流域、下流域に砂礫地面積が類似するように調査枠（川幅×流れの方向 1.5 km）を設置する。調査枠内の砂礫地に繁殖しているつがい数を巣や巣立ち雛から確認し、繁殖密度を推定する。それを調査地間で比較する。

**環境調査：**

鳥が好む礫の大きさ：調査枠内で繁殖している営巣個体の巣を確認し、巣の周辺 1m×1m の写真を真上から撮影する。

調査地の砂礫の大きさ：調査地の砂礫地からランダムに地点を 30～50 地点程度選び、1m×1m の写真を撮影する

**分析：**写真のゆがみを補正し、写真上で礫の大きさを測定。巣の周辺にある礫の大きさや構成と調査地の砂礫を構成する礫の大きさや構成を比較する。



## 参加型調査

河川をフィールドにしている野鳥観察団体や、自然環境・水環境をテーマに各地の河川で活動している市民団体に調査への協力を呼びかけて、チドリ類の観察ネットワークを作ります。協力団体にはチドリ類が生息する地点を知らせていただき、慎重を要する環境調査はバードリサーチのスタッフが実施します。また調査の際には協力団体の方にも参加していただき、チドリ類の生息に十分配慮しながら、一緒に調査を行います。そして、チドリ類の生態や、繁殖を阻害する要因について説明を行い、相互に情報を交換しながら河川の生態系について理解を深めます。